



キンギョは本当はどこにいる魚なの

野生のキンギョはいない

キンギョは、フナの仲間です。フナは、池や小川、ぬまなどにすんでいる、黒っぽい魚です。この黒っぽいフナから、親とはちがった赤いフナが、ぐう然生まれることがありました。この赤いフナから、やはり赤いフナの子どもが生まれ、ヒブナという品種が生まれました。今いるキンギョの先祖は、このヒブナです。

ヒブナから、より形かたちのきれいなもの、今までにない変わった姿すがたのものというように、人間が1000年以上前から、改良かいろりょうをかさねてきて、つくりあげたのがキンギョなのです。だから、野生のキンギョというものは、いません。

卵たまごからかえったばかりのころのキンギョは、色や形かたちがフナとそっくりで、くすんだ黒い色いろをしています。

キンギョの体は、生きるには不便

キンギョは、人間が見て楽しむために、姿すがたや形かたちを改良かいろりょうしてきたので、もともと、魚として自然しぜんに生きていくために便利べんりだった体からだつきとは、ちがってきています。ふくらんだ大きなおなかや、はなやかなおびれは、すばやく泳ぐには、不便ふべんです。目立つ色いろは、鳥とりやほかの魚いしなどの、敵てきにすぐ見みつかります。だから、キンギョが池や小川いけ おがわににげ出だしても、生きていくことは、できません。先祖せんぞのフナちか からだに近い体からだつきが残のこっているキンギョは、池や小川いけ おがわでたまみに見みつかります。(監修・安部 義孝)

